

大学における学芸員養成課程の科目のねらいと内容について

令和6年3月25日
文化審議会第5期博物館部会

I はじめに

令和4年4月には約70年ぶりともなる博物館法の大幅改正が国会審議を経て可決、公布され、翌年に施行された。本改正では、博物館が社会教育施設としてだけでなく、文化施設としても、その役割を果たしながら活動することが規定されるとともに（新博物館法第1条、第3条）、社会教育施設である博物館の事業を定める第3条においては、博物館資料の電磁的記録の作成と公開が加えられたほか（第3条第1項第3号）、博物館が学芸員をはじめとする博物館に関する人材の養成及び研修を行うことが加えられた（第3条第1項第11号）。また、第3条第2項および第3項では、博物館相互のネットワーク、または地方公共団体や学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力することで、博物館事業の充実と地域における教育、学術及び文化の振興、地域の活力の向上に寄与することが期待されている。

これからの博物館が多様化、高度化した役割を果たしていくためには、その役割に応じた専門的人材の確保、学芸員その他の職員に対する研修や交流の機会の増加等、博物館を支える職員体制の充実化に向けた検討を進めるほか、大学における学芸員養成課程についても見直しや現代化が求められる。

現行の大学における学芸員養成科目の内容は、「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」における議論を経て、「学芸員養成の充実方策について」（平成21年2月）の別紙2「大学における学芸員養成科目の改善（ねらい・内容）」において示されてきたところであり、本文書は、その内容について改訂を行うものである。また、本改訂にあわせて、「博物館実習ガイドライン」（平成21年4月）を改訂しており、あわせて参照いただくことで、博物館人材の確保と資質の向上を通じて博物館全体の振興につながるよう、学芸員養成課程の工夫や改善に取り組んでいただきたい。

Ⅱ 改訂の方向性

学芸員の役割に関する調査や要望等の中で、これからの学芸員に求められるものとして、博物館活動の充実のための経営管理能力、観光・まちづくりといった地域社会との関わり、国際化への対応、デジタル・コンテンツやSNS等のツールを活用した広報活動、教育普及・利用者対応のスキルなどの対人関係能力・コミュニケーション能力、地域社会との連携・地域住民への価値の還元の視点などが寄せられた。学芸員が収集保管、調査研究、展示、教育等、博物館の基本的な機能を担う中心的な人材であることは変わらないが、博物館に求められる新しい役割を果たしていくために必要な資質や能力を持つための養成課程の再検討が求められている。

そこで、上記の観点と博物館法の改正によって新たに盛り込まれた事項に沿って、これから求められる学芸員の資質として再整理し、改訂の方向性を定めて科目のねらいと内容の見直しを行った。その際、引き続き学芸員養成課程において重要と思われる項目を維持しつつ、科目内容の体系化を図っている。

<新たに求められる学芸員の資質>

- ・ 博物館の持続的かつ発展的な経営に係る視点を持ち、利用者の満足度を高めるとともに、新たな層に働きかけることのできる人材
- ・ 高い専門性を活かした調査研究に加え、多様な主体との連携等により新たな価値を共創できる人材
- ・ 現代社会において期待される新たな業務（デジタル・アーカイブ化、文化観光、地域の活性化等）に対応できる人材

<改訂の方向性>

- ・ 博物館の経営基盤強化につながる、経営戦略、利用者価値の向上、コレクションマネジメント等に係る記載を追加する。
- ・ 博物館の活動基盤としての調査研究、多様な主体との連携、地域課題への対応、国際社会、多文化共生等に係る記載を追加する。
- ・ 新しい情報メディアやデジタル・アーカイブ等の活用による魅力発信と業務の効率化・高度化を促す。
- ・ より実務的な能力育成のための館園実習の選択肢を増やす観点から、一定期間の「長期実践型館園実習」による単位認定を可能とする旨を追加する。

各大学においては、こうした点を念頭に置きつつ、適切に学芸員養成課程を実施することが望まれる。

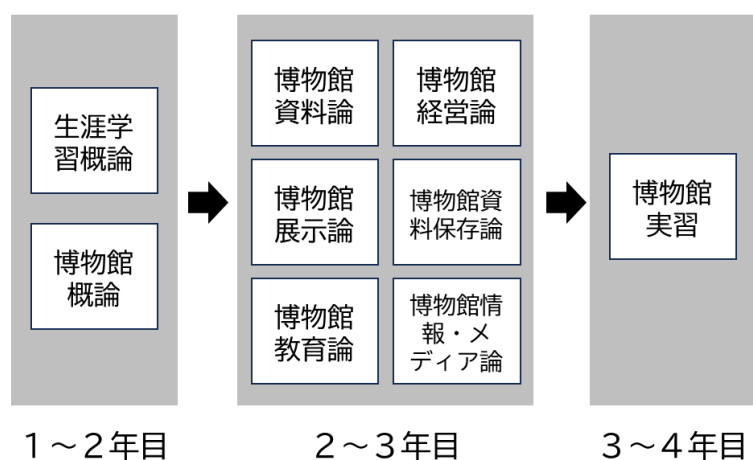
Ⅲ 科目の単位数・履修順序

博物館に関する科目は、以下の9科目19単位で構成されている。

生涯学習概論	2単位
博物館概論	2単位
博物館経営論	2単位
博物館資料論	2単位
博物館資料保存論	2単位
博物館展示論	2単位
博物館情報・メディア論	2単位
博物館教育論	2単位
博物館実習	3単位

これらの科目を各年次に配分するに当たっては、各科目で習得する内容を踏まえ、履修順序に配慮することが必要である。概論とされる科目については初年度等に履修させ、博物館実習は学んだ内容を実地で生かす機会として最終年度に履修させることが望ましい。それ以外の科目については、各科目の内容を踏まえて各大学において適切に判断されたい。

<履修順序の例>



IV 大学における学芸員養成課程の科目のねらいと内容

No.	科目名	単位数	ねらい	内容
1	生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。	○ 生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築 ・ 生涯教育論・生涯学習論の生成と展開 ・ 学習機会の多様化・拡大化 ・ 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 ・ 生涯学習振興施策の展開とその推進 ○ 生涯学習の意義と特性 ・ 教育の原理と生涯学習の意義・特質 ・ 我が国及び諸外国における生涯学習の発展と特質 ○ 生涯学習・社会教育行政の展開 ・ 生涯学習・社会教育行政の意義と役割 ・ 社会教育行政・生涯学習振興行政・一般行政の関連(関係法令と行政組織) ・ 生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 ・ 生涯学習を通じた文化芸術の発展 ○ 生涯学習の内容・方法と指導者 ・ 生涯学習の内容・方法・形態(生涯発達と教育の関連、学習情報の提供と学習相談を含む) ・ 学習への支援と学習成果の評価と活用 ・ 生涯学習・社会教育指導者の役割
2	博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館とは何かという問いを理解するための専門性の基礎となる能力を養う。	○ 博物館学の目的・方法・構成 ・ 博物館学の目的・方法・構成 ・ 博物館学史 ○ 博物館の定義 ・ 定義(類縁機関との違いを含む) ・ 種類(館種、設置者別、法的区分等) ・ 目的・機能 ・ 活動基盤としての調査研究 ○ 博物館の歴史と動向 ・ 我が国及び諸外国の博物館の歴史 ・ 我が国及び諸外国の博物館の動向 ・ 館長、学芸員、その他の職員の役割 ・ 博物館倫理(行動規範) ・ 博物館関係法令 ・ 博物館と社会(地域課題への対応、国際社会、多文化共生)

No.	科目名	単位数	ねらい	内容
3	博物館経営論	2	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営に関する基礎的能力を養う。	○ 博物館の経営基盤 ・ 博物館経営と意義 ・ 行財政制度 ・ 施設・設備(ユニバーサル化・付帯施設を含む) ・ 組織と職員 ○ 博物館の経営 ・ 使命と計画と評価 ・ 経営戦略と財務 ・ 博物館の危機管理 ・ 成果の社会還元 ○ 博物館と多様な主体との連携 ・ 利用者との関係(PR・マーケティング等) ・ 市民参画(友の会、ボランティア、支援組織等) ・ 博物館ネットワーク・他館との連携 ・ 他機関(行政・大学・類縁機関等)との連携 ・ 地域社会と博物館(地域の活性化、地域社会との連携)
4	博物館資料論	2	博物館資料の収集、保管、デジタル化等に関する理論や方法に関する知識・技術を基盤として、コレクション管理に関する考え方を習得する。また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。	○ 博物館資料の概念 ・ 資料の意義 ・ 資料の種類 ・ 資料化の過程 ○ 博物館資料の収集・保管・活用 ・ 収集理念と方法(情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等) ・ 資料の分類・整理(目録作成を含む) ・ 資料公開の理念と方法(アクセス権、特別利用等を含む) ・ 長期的視野に立ったコレクション管理 ・ 関係機関との連携(図書館や公文書館等) ○ デジタル・アーカイブの構築と資料管理 ・ 資料のデジタル化と公開 ・ デジタル・アーカイブによる資料管理 ○ 博物館資料に関する調査研究 ・ 調査研究による資料の意義づけ ・ 調査研究成果の還元

No.	科目名	単位数	ねらい	内容
5	博物館資料保存論	2	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境(育成を含む)を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。	○ 博物館における資料保存の意義 ○ 資料の保全(育成を含む) ・ 資料の状態調査・現状把握 ・ 資料の修復・修理 ・ 資料の梱包と輸送 ○ 博物館資料の保存環境 ・ 資料保存の諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気等) ・ 生物被害とIPM(総合的有害生物管理) ・ 災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等) ・ 連携・ネットワークによる資料の保全 ・ 伝統的保存方法 ・ 収蔵、展示等の保存環境 ・ デジタル化と資料情報の保存 ○ 地域社会における資料保存 ・ 地域資源の保存と活用(エコミュージアム等) ・ 文化財の保存と活用(景観、歴史的環境を含む) ・ 自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)
6	博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。	○ 博物館展示の意義 ・ コミュニケーションとしての展示 ・ 調査研究の成果の提示 ・ 展示と展示論の歴史 ・ 展示の政治性と社会性 ○ 博物館展示の実際 ・ 展示の諸形態 ・ 展示の制作(企画、デザイン、技術、施工、予算計画等) ・ 関係者との協力(他館、所蔵者、専門業者等) ・ 展示の評価と改善・更新 ・ ICT を活用した展示 ○ 展示の解説活動 ・ 解説文・解説パネル ・ 人による解説 ・ 機器による解説 ・ 展示解説書(展示図録、パンフレット等)

No.	科目名	単位数	ねらい	内容
7	博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。	○ 学びの意義 ○ 博物館教育の意義と理念 ・ コミュニケーションとしての博物館教育(博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) ・ 博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) ・ 博物館教育の方針と評価 ○ 博物館の利用と学び ・ 博物館の利用実態と利用者の博物館体験 ・ 博物館における学びの特性 ○ 博物館教育の実際 ・ 博物館教育活動の手法(館内、館外、ICT の活用等) ・ 博物館教育活動の企画と実施 ・ 博物館と学校教育(博物館と学習指導要領を含む) ・ 連携による教育活動(他館、社会教育施設、企業等)
8	博物館情報・メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。	○ 博物館における情報・メディアの意義 ・ 情報の意義(メディアの理論と歴史を含む) ・ メディアとしての博物館(メディアの発展と博物館) ・ ICT 社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等) ・ 情報教育の意義と重要性 ○ 博物館情報・メディアの理論 ・ 博物館活動の情報化(沿革、調査研究活動、展示・教育活動等) ・ 資料のドキュメンテーションとデータベース化 ・ デジタル・アーカイブの意義・方法・課題 ・ 映像理論、博物館メディアの役割と学習活用 ○ 博物館における情報発信 ・ 情報管理と情報公開 ・ 情報機器の活用(情報端末、新たなメディア経験等) ・ インターネットの活用 ○ 博物館に関する法と権利 ・ 知的財産権(著作権等) ・ 所有権 ・ 個人情報(肖像権等) ・ 権利処理の方法

No.	科目名	単位数	ねらい	内容
9	博物館実習	3	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を解し、実践的能力を養う。	○ 学内実習 ・ 見学実習(多様な館種の実態理解) ・ 実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得) ・ 事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導) ○ 館園実習(博物館における実務体験)